

# 官民協働のまちづくり

## 松丸 修久 守谷市長

### 3期目就任インタビュー



【略歴】松丸修久（まつまる しゅうきゅう）1954年4月29日生まれ。70歳。守谷市出身。同志社大学経済学部卒業。2000年に市議会議員となり、12年から16年まで議長に当選。16年の第4回守谷市長選挙で初当選し、第2代市長に就任。24年11月開票の市長選挙において、3期目の当選を果たした。

3期目となる市政の舵取りを担うこととなった松丸修久市長に、まちづくりのビジョンや行財政運営の考え方について聞いた。「本市では幸い、コロナ禍においても人口が増加してきたが、このまま人口増が続くわけではない。外から人を呼ぶための企業誘致や拠点整備が必要」と、先を見据えた市政への意気込みを語る。未来に資産を残すため、既成概念にとらわれない連携・協働のまちづくりに尽力していく。

#### 守谷の未来へ明るい材料

「市長就任から2期8年が経った。振り返りと3期目への思いについて」

2020年からの2期目は新型コロナウイルスの影響も大きく、コロナ対策とコロナ明けの事業の立て直しが大変な役目だった。幸いにも市の人口は増加しており、プロ野球東京ヤクルトスワローズの2軍誘致ができたことは幸運だったと思う。守谷の未来に向けて、明るい材料と捉えている。

守谷サービスエリアスマートインターチェンジ（以下、守谷SAスマートIC）についても、多くの関係者の支援を受けて24年度に事業化の運びとなった。早期の開通を目指し、一歩一歩着実に整備を進めていくことが重要。

TXの東京駅延伸については、沿線自治体をはじめとする関係機関が一丸となり、早期事業化を目指していく。40年に守谷発羽田空港行の鉄道が開通すること、さらなる市の発展につながることを期待できる。実現に向けた働きかけが、今後の大きな仕事になる。

#### 雇用創出、交流人口増加に向けた環境づくり

「守谷SAスマートICの整備に合わせて、ヤクルト2軍施設をはじめ（仮称）市総合公園、IC周辺区画整理など大きな事業が進む。将来の展望は」

本市は市域が6キロ四方と狭く、将来の大規模な宅地開発は望めないのが実情。10年、20年先を見据えた行財政運営を考えた際に、産業立地の推進や交流人口の増加は欠かせない。守谷SAスマートICの整備は、立地企業の輸送効率化の観点から大きなメリットになる。連動して、守谷SA周辺地区での土地区画整理事業が組合施行で計画されており、市としても事業を支援していく。企業誘致を促進することで雇用を創出し、層間人口を増やすことができれば、地元商工業者にも大きなメリットがあると考えている。

#### まちづくりの力は「協働」

「官民連携事業の推進について」

まちづくりにおいては、民間事業者との協働が不可欠というのが私の考え。地方自治体のあり方として、国に頼らず自立自走しなければならぬ時代を迎えているため、従来のトップダウン的な考えにとらわれず、民間事業者と力を合わせて将来を見据えた行財政運営を行うことが首長の責任だと考える。

行政と市民の関係においても、行政サービスを提供し、享受するだけの関係にとどまっていなければならない。行政・民間・市民が対等な立場で知恵を出し合い、協働してよりよいまちづくりを推し進めていくことが必要である。

#### 実情に合わせて、地域全体を再生

「人口増による諸課題への対応。特に、学校適正配置について」

い、一部の学校では大規模校化が進み、特に増加の著しい黒内小学校では早急な対応が必要となっている状況。黒内小学校ではリースによる特別教室棟の増設や北門の設置といったハード面の対策と、特定地域選択制度等の促進といったソフト面の対策を講じていく。北門設置事業に係る実施設計を策定中で、25年度の工事完了を目指している。リース校舎は25年7月から35年6月までの賃貸借に向けて、1月から整備工事が始まった。

一方、人口の減少や高齢化が進んでいる地域では子どもの数が減少し、小規模校化している学校も見られる。大規模校となっている学校についても、中長期的に人口が減少することを見過して、全体のまちづくり計画を再編する必要がある。その中で、今後の教育環境のあり方として、特色のある学校づくりについても考えていきたいと思っている。

## スマートIC、総合公園整備



東京ヤクルトスワローズ2軍施設イメージ図



「こじゅまる」(左)、「つば九郎」(右)のぬいぐるみと

宅を想定していた開発区域がファミリーマンションとしての売却となり、想定外の人口増となった経緯がある。松並青葉地区ではリーマンショック時に同様のことがあった。当初は戸建て住宅を想定していたため、公共施設等の配置計画とのずれが生じ、大規模校などの課題が出てきた。社会全体としては若年層の通減が見込まれることから、少子高齢化の波が到来した時のことまで考えて対応を講じていく。

実際に開発時期が早いみずき野などの地区では、高齢化と人口減少に伴う課題が生じている。本市は地区ごとに開発時期が異なることから、人口構成についても違いがある。それぞれの地区に合わせた施策を行い、地域全体の再生へ向けた動きを加速化させていく考え。

#### 建設業界と助け合いながら

「地域を支える建設業へのメッセージ」

「趣味、余暇の過ごし方」

地元建設業者の皆様とは、防災訓練や守谷ハーフマランの清掃ボランティアなど、さまざまな場面で良好な関係を築いてきたことに感謝している。建設業協会、管工事業協同組合、電気工事業協会からなる災害対策協力会とは「災害時における復旧活動の協力に関する協定」を締結しており、災害対応でも欠かせない存在。今後とも、互いに助け合いながらまちづくりを進めていければと思っています。引き続きの力添えを願う。

#### 教養番組で知的好奇心を満たす

「趣味、余暇の過ごし方」

興味あるゴルフと読書の時間は、なかなか取れないのが実情。最近、NHKの教養番組を見ることで知的好奇心を満たしている。以前は歴史物などを好んでいたが、最近では脳科学や宇宙の起源など、自然科学の分野にも興味湧くようになった。

ともに飛躍へ、新たなまちづくりを応援します。

# 一般社団法人 守谷市建設業協会

〒302-0116 茨城県守谷市大柏797-1  
電話 0297-48-6678 FAX 0297-38-6113 E-mail: kyoukai@m-mkk.jp

- |           |          |           |           |             |
|-----------|----------|-----------|-----------|-------------|
| 令和建設(株)   | 株)日田建設工業 | (有)寺田工業   | 株)北総園     | オオシン(株)     |
| 株)山富造園    | 株)商元     | 今井建設      | (有)松丸造園工事 | (有)オオヤマ建設工業 |
| 酒石建設工業(株) | (有)小林造園  | (有)守谷造園   | (有)三美園小林  |             |
| 常陸建設工業(株) | 株)坂巻兄弟建設 | (有)染谷ガーデン | (有)中村建設   |             |